

2013年12月10日 全8頁

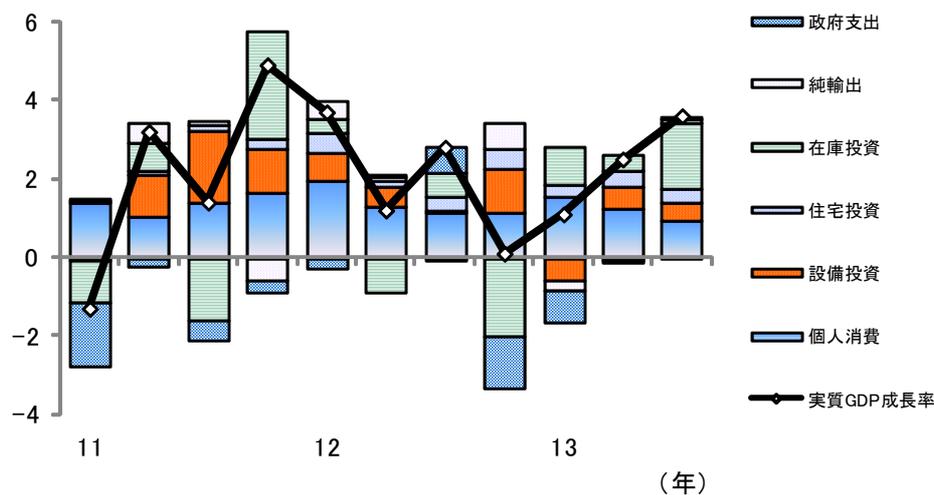
アメリカ経済グラフポケット(2013年12月号)

2013年12月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



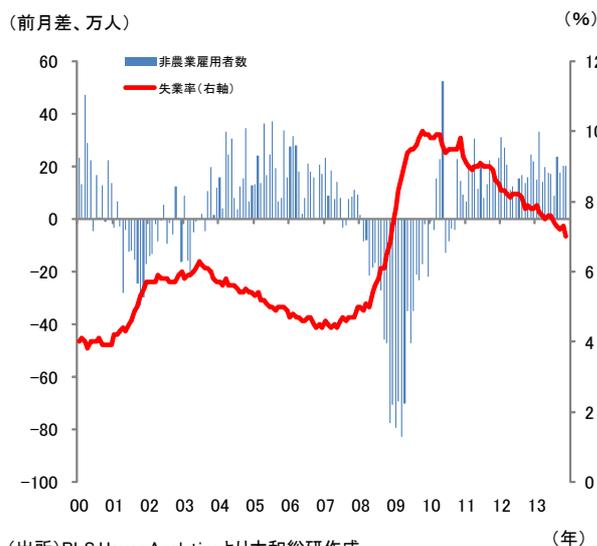
(前期比年率、%、%pt)	2011	2012				2013		
	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
国内総生産	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	3.6
個人消費	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	1.4
設備投資	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	3.5
住宅投資	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	13.0
政府支出	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4
輸出	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.7
輸入	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.7
寄与度								
個人消費	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.0
設備投資	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.4
住宅投資	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4
在庫投資	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7
政府支出	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1
輸出	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5
輸入	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

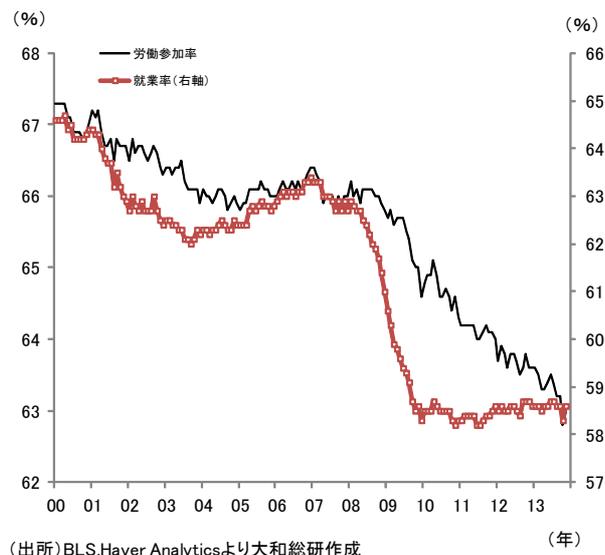
雇用環境¹

- ◆ 11月の失業率は7.0%で、10月から0.3%ポイント低下した。2008年11月以来、5年ぶりの低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差20.3万人増と、2ヵ月連続で前月差20万人台の増加となった。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は18.0万人増と、増加ペースの加速が示された。

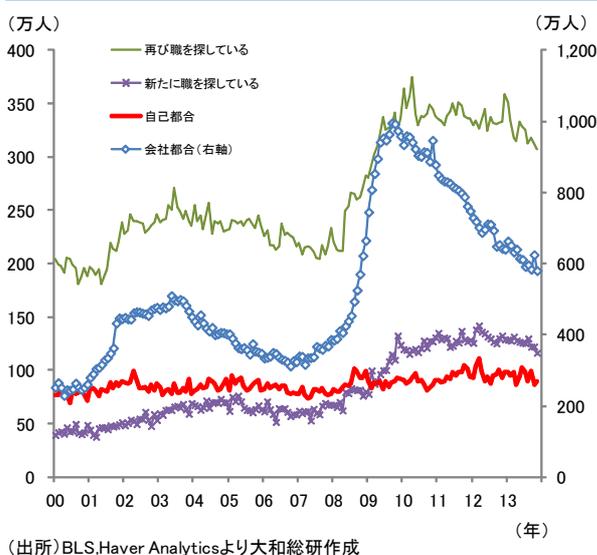
非農業雇用者数と失業率



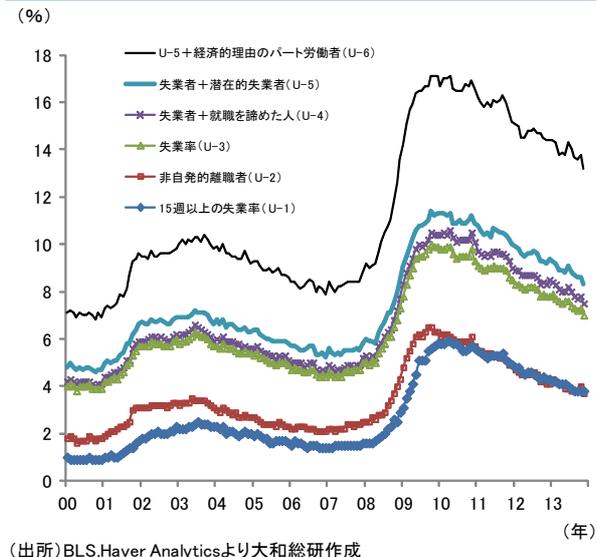
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

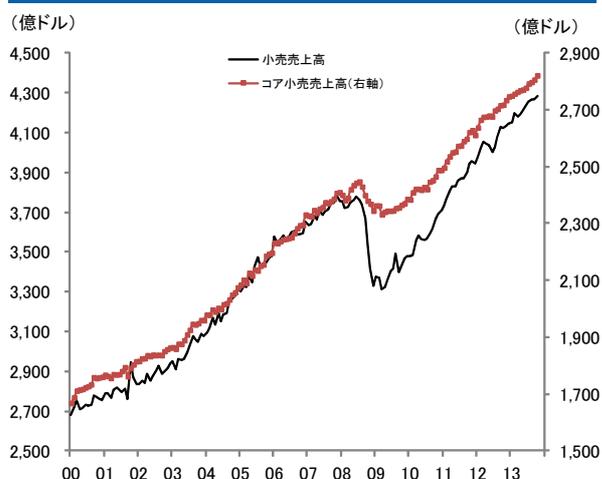


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「雇用環境は大幅改善」(2013年12月9日)参照。
http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20131209_007989.html

個人消費

- ◆ 10月の個人消費は、小売売上高が前月比0.4%増。コア小売売上高は同0.5%増で、2012年7月以来連続で増加している。
- ◆ 12月のロイター/ミシガン大消費者センチメント（速報値）は82.5と11月から上昇し、今年7月以来の高水準となった。
- ◆ 11月の自動車販売台数は前月比7.7%増に増加し、年率換算では1,641万台であった。今年8月以来3ヵ月ぶりに1,600万台を上回った。

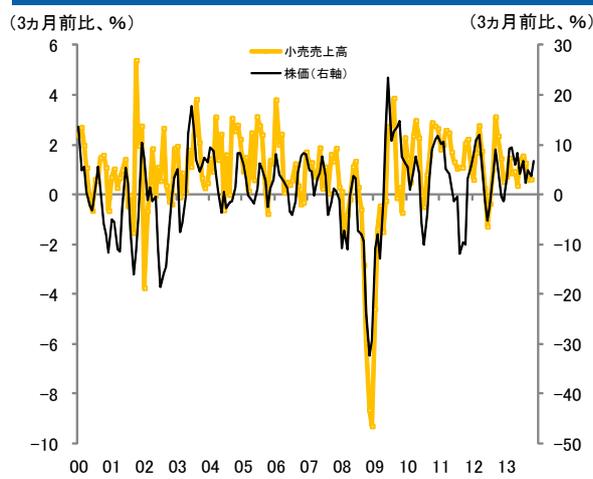
小売売上高の推移



(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。

(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

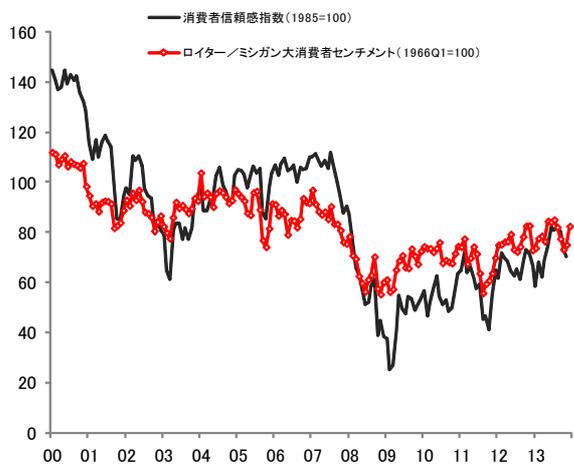
消費と株価



(注) 株価はWilshire5000。

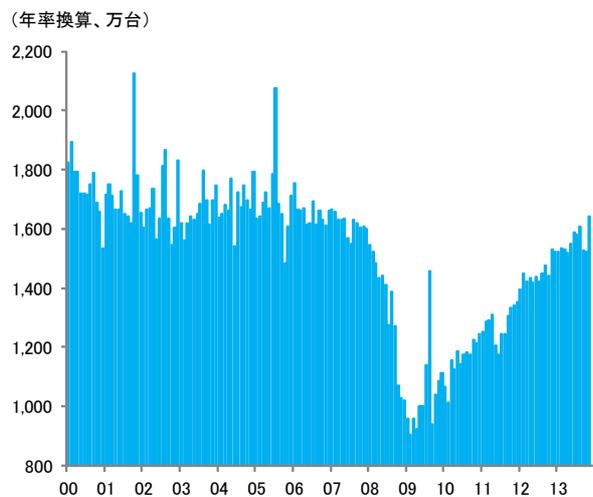
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

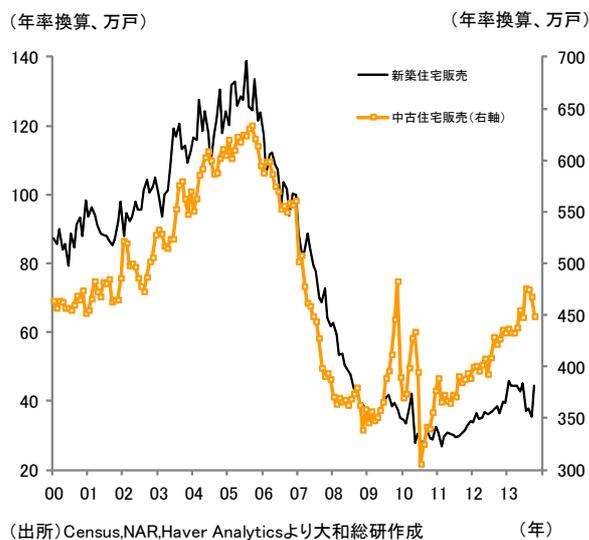


(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

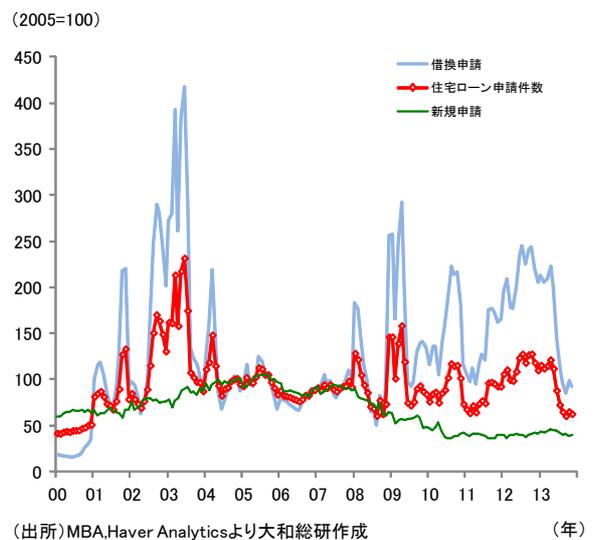
住宅市場

- ◆ 8月の新築着工は、前月比0.9%減で年率換算88.3万戸となった。
- ◆ 10月の中古住宅販売（一戸建て）は、前月比4.1%減の年率換算449.0万戸であった。在庫不足と住宅価格の上昇により販売が押し下げられ、今年6月以来の低水準となった。
- ◆ 10月の新築住宅販売は前月比25.4%増と大幅に増加し、年率換算44.4万戸であった。今回の大幅な伸びは1980年5月以来で、住宅市場の回復が堅調であることを示した。
- ◆ 9月の住宅価格は引き続き上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年7月以来の高水準となった。

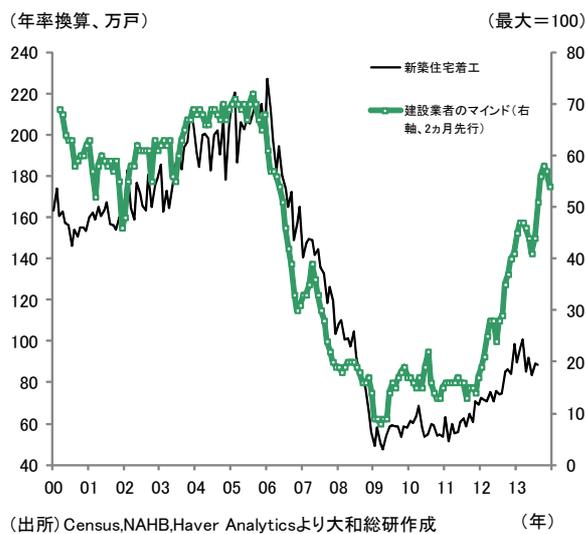
住宅販売（一戸建て）



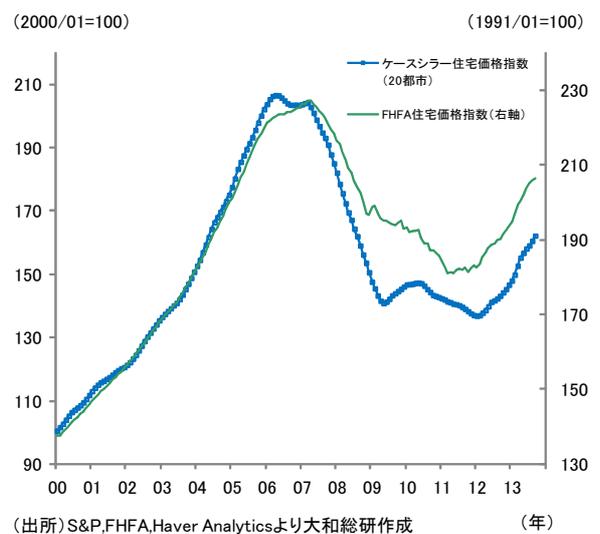
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者のマインド



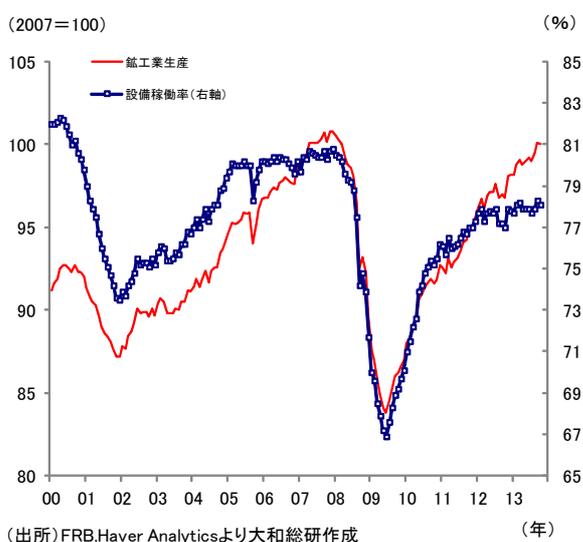
住宅価格



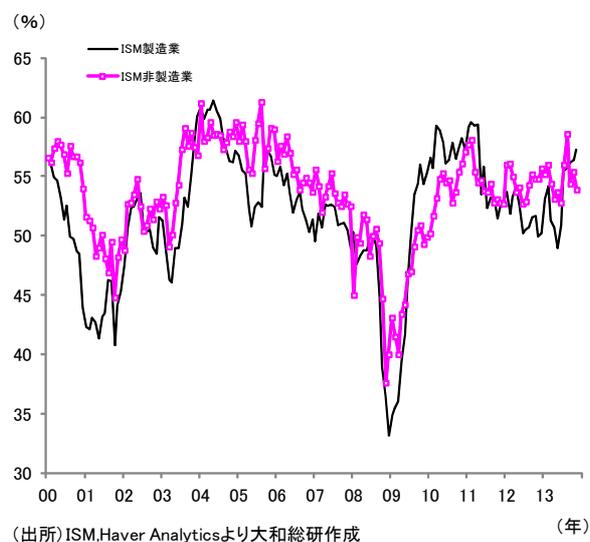
企業動向

- ◆ 10月の鉱工業生産指数は前月比0.1%減で、製造業は同0.3%増であった。
- ◆ 10月の国防・航空機を除く資本財受注は、前月比0.6%減となった。
- ◆ 11月のISM製造業指数は、前月比0.9%ポイント上昇。景気の拡大・縮小の分岐点である50%を6ヵ月連続で上回り、2011年4月以来の高水準となった。非製造業指数は同1.5%ポイント低下したが、依然として50%を上回っている。

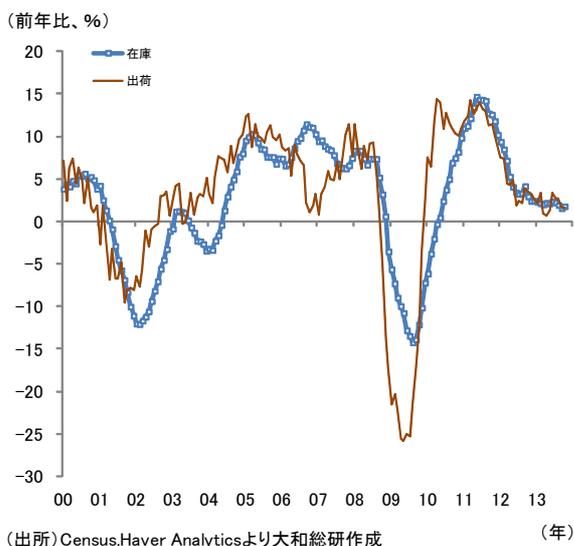
鉱工業生産と設備稼働率



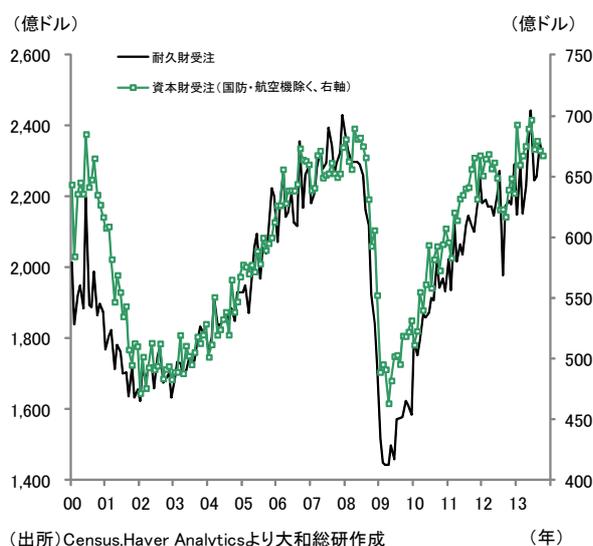
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



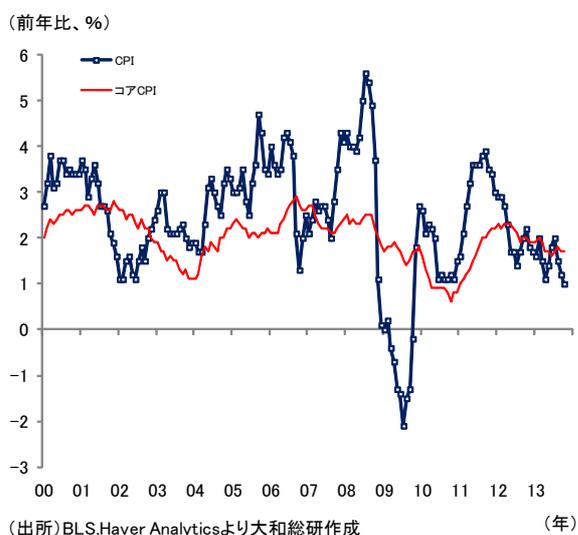
耐久財受注



物価動向

- ◆ 10月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.0%増で、コアCPIは同1.7%増であった。
- ◆ 11月末のWTI原油先物価格は92.72ドル/バレルと、3ヵ月連続で低下し、今年5月以来の低水準となった。

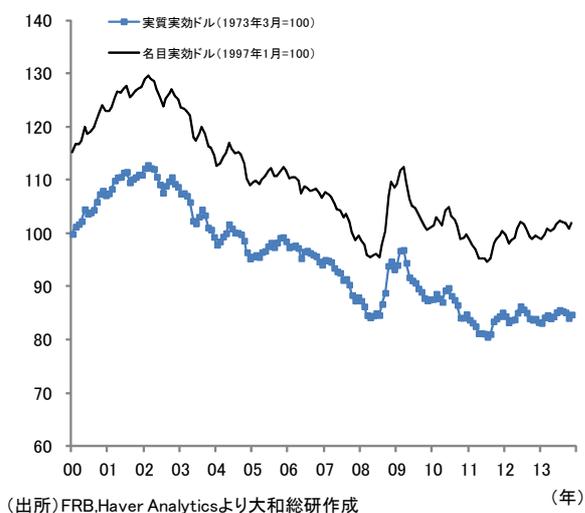
消費者物価指数



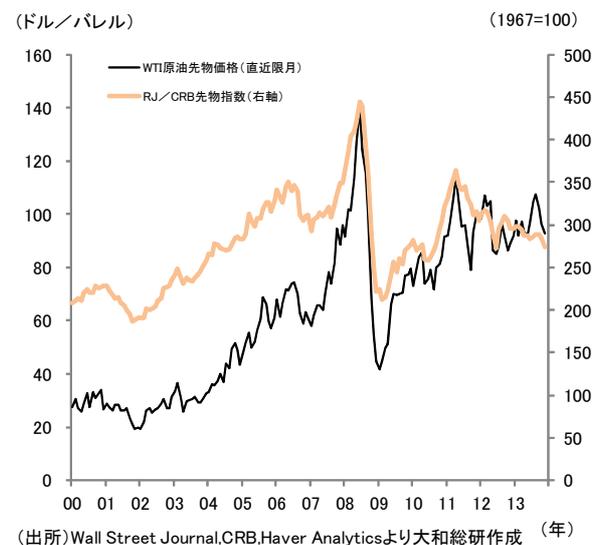
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



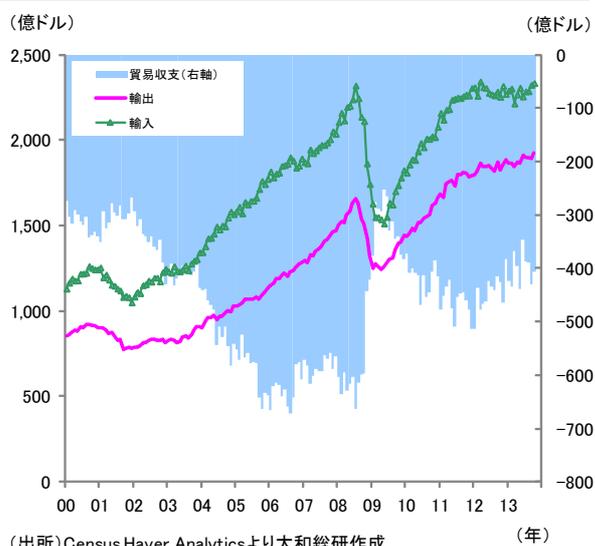
コモディティ価格



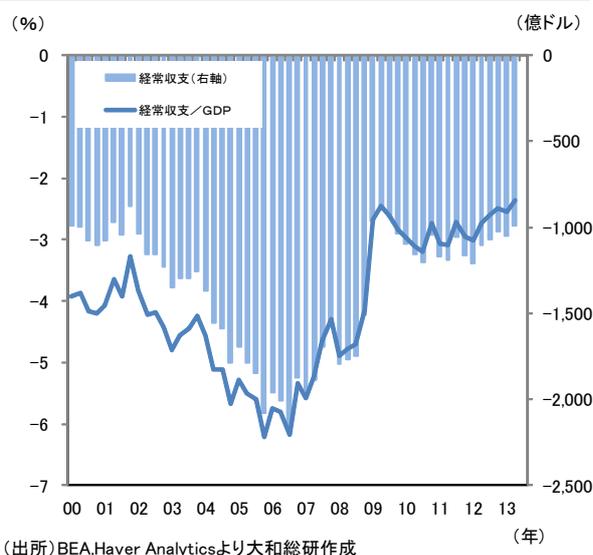
輸出入・経常収支

- ◆ 10月の貿易収支（財・サービス）は、前月比5.4%減の約406億ドルの赤字となった。
- ◆ 輸出は前月比1.8%増、輸入は同0.4%増であった。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けの輸出が前年比20.6%増と大幅に増加した。欧州向けの輸出も同5.4%増。日本向けの輸出は同3.3%減と、5ヵ月連続で前年比減が続く。輸入は、欧州からの輸入が同13.7%増で、中国からの輸入も同4.1%増であった。一方、日本からの輸入は同6.4%減となり、再び減少に転じた。

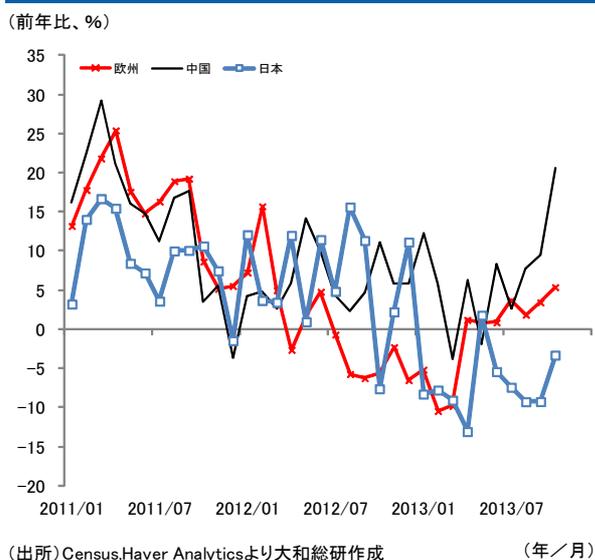
貿易収支動向



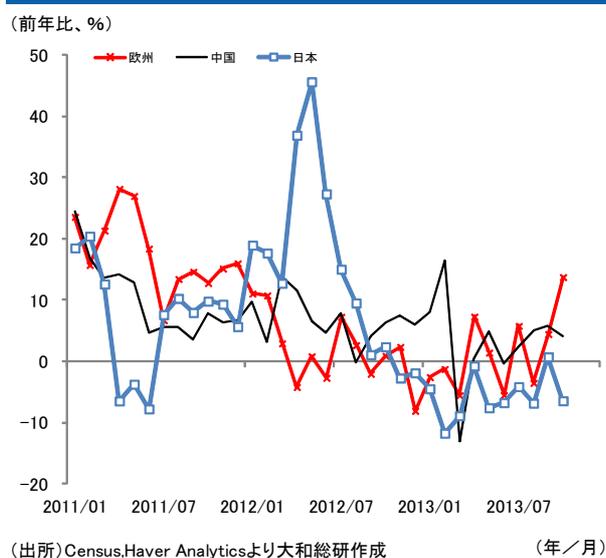
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



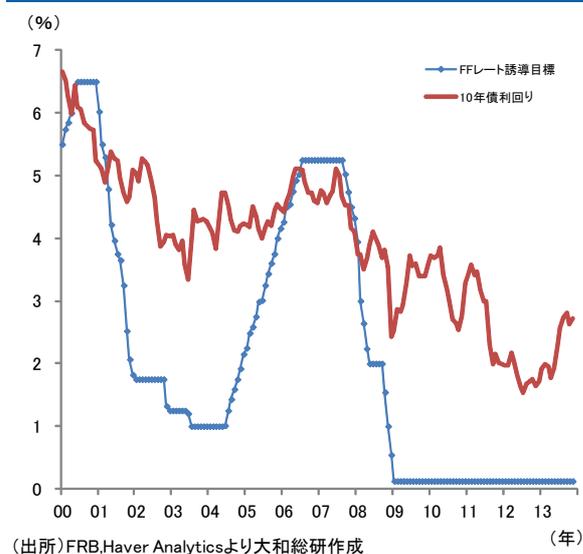
国・地域別輸入動向



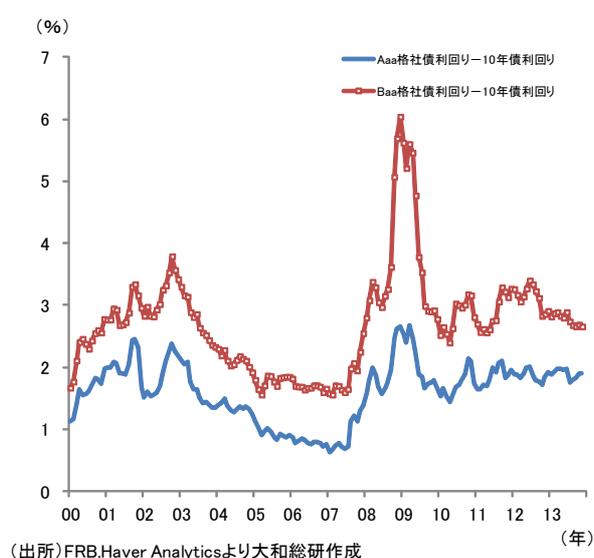
金融・財政

- ◆ 長期金利(10年債利回り)の11月平均値は2.72%であった。歴史的に見れば低水準が続く。
- ◆ 10月のFOMCにおいて、月額850億ドルの資産を買い入れるQE3(量的緩和第3弾)の継続が発表された。QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の12月4日の週平均では約3兆9,700億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支は、トレンドとして赤字幅の縮小が続いている。

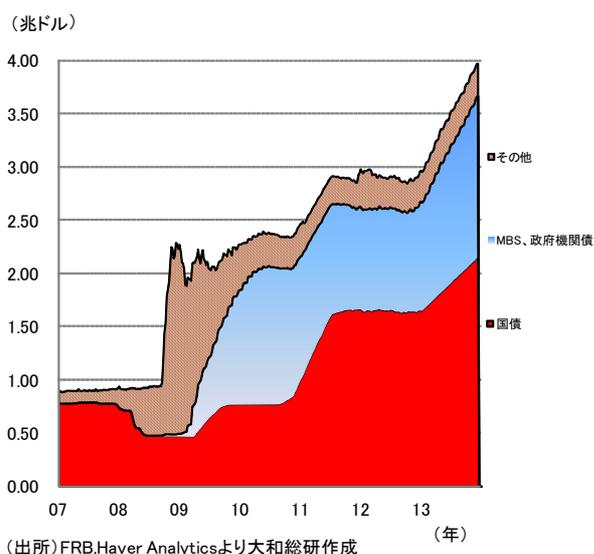
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

